

| 番号 | 主な意見 | 当日の回答要旨 |
|----|--|--|
| 1 | 検討の当初は、今起こっている子どもにまつわる課題を解決することが主目的だったように思いますが、中間報告では子どもの人権を守るという根本的な部分に軸足が移った印象を受けます。検討の中で何か変化があったのですか。 | 委員会の初めのほうでは、個々の重点課題を中心に検討されていましたが、子どもの権利条約の理念は当然ベースにありますので、議論が進むにつれて、重点課題だけではなく、全体的な考え方が整理されたものと考えます。 |
| 2 | →ありがとございます。いい方向に移ってきているなというふうに感じています。 | |
| 3 | 検討委員会の中間報告の段階でこれだけのボリュームがありますが、次に令和4年の12月頃に市の条例素案が出て、そのパブリックコメントを受けて2月に議案上程というスケジュールの中で、この内容のボリュームを削って、シンプルな最終形にすることが、きちんと市民からの意見を吸い上げた上で可能なのでしょうか。 | この先、委員会では中間報告へのパブリックコメントの対応を考えていただき、9月に報告書をお出しいただく予定です。それを受けて、市で12月を目途に条例素案をつくる予定ですが、この中間報告や報告を削っていくというよりは、パブリックコメントも含めて多様な意見をいただいた中で、市としてどういう条例をつくっていくかを考えていきたいと思っています。 |
| 4 | 最終的には子どもが読んでも分かりやすい条例にする必要があると思いますが、ここまで本当にいろいろな意見をまとめたいただいて、今の段階は両論併記でよいとしても、例えばパブリックコメントで、子どもに有給休暇のような制度を設定するかどうかで意見が分かれたときに、その両論をどういうプロセスを経て着地させるのかについて、イメージを教えてください。 | 単にどちらの意見が多いかだけでなく、様々な意見を受けて、市としての考えを条例の素案としてまとめます。その上で、再度パブリックコメントを実施するイメージです。子どもが読んでも分かるような、という点については、他自治体のものを見ても、条例の条文のみではなかなか難しいところもありますので、子ども向けのリーフレットなどもつくることを予定しています。 |
| 5 | →どういものかが分かりやすいのかというのは本当に難しいと思うのですが、そこはぜひ追求していただきたいというふうに思いますので、要望します。 | |
| 6 | 段階的に丁寧に進めていただいていると思いますが、ある形が出てきたときに、今までやってきた議論をシャープにしたために、自分の意図と違うという意見が後から出てくる気がします。このスピード感で大丈夫なのか心配です。いろいろな意見をぶつけ合うプロセスも大事なのではないかと考えると、もう少し時間をかけてもいいというのが正直な感想です。漠然とした意見かもしれませんが、時間が不十分ではないでしょうか。パブリックコメントや意見交換会をやったという事実がそのことを大丈夫だと言わせてくれるのかどうか。そこについてどんなふうに考えているか、教えてください。 | 令和3年5月に委員会を設置して、この間、様々議論を重ねていただき、中間報告はすばらしいものが出てきていると思います。中間報告では、市民の皆さまで議論をしていただきたいという考えで、様々な補足意見もつけています。まとめているのはもちろん大変な作業ですが、ただ時間をかければ良くなるということではなく、様々な意見を受け止めて、市としての素案をつくっていきたいと思っています。 |
| 7 | →今御説明いただいた、様々な意見が出てきたときに最終的には市でまとめるとおっしゃっている、市でというのは何を指しているのかというのですか。 | 市の関係部署で素案作りを進めていきますが、最終的には行政でつくった条例案を提案をして、議会で認められたときに、市としての条例になると考えています。 |
| 8 | 市民参加ということの原則からいって、自分たちのものを市民がつくっていく、それを行政が支えていくのではないのでしょうか。市という言葉の中に市民は含まれていないのですか。行政がつくるものに対して市民が意見を言って、意見交換、パブリックコメントをやりましたという事実の積み重ねだけで、答えに行き着こうとしていませんか。本当は市民が自分たちでつくったものなのですよと言えるような形にしたいと思っているのですが、いかがでしょうか。 | 今回の委員会でも、市民である委員の皆様にも議論していただいています。委員会から報告をいただいた後は、行政がこれを基に条例素案をつくり、もう一度パブリックコメントをします。そこでもう一度市民の方の意見を聞いた上で最終的に条例案にして提出します。委員会で市民の方に議論いただき、パブリックコメントでもう一度市民の方から意見を伺って反映させていきますので、市民参加で条例を作っているものと考えています。 |
| 9 | 令和4年12月頃に市のつくった条例素案が出てきた段階で、聞いていない、という市民が出てくるのではないのでしょうか。今のこのスピード感で、そういうふうなことになるかなという不安をちょっと感じているのですけど、そのことについてはいかがでしょうか。 | そうならないよう、今、中間報告のパブリックコメントについて行政報告をしているところですが、ぜひ市議の方からも皆さんにお知らせいただきたいと思います。 |
| 10 | →今までも、後ればせながらと言って、あつ、気づいていなかったというふうなことも起きてきているので、何とかそこを拾えるよう、回数だけではなくて、その間のやり方等々についてもこれから注目していきたいと思っています。 | |
| 11 | 進め方については、早いかと思いました。 | |
| 12 | 都のこども基本条例や、日本国憲法にも人権の記載がありますが、これらと整合の取れた範囲で条例を作っていくことになるという考えでよろしいですか。 | 当然ながら、憲法や東京都こども基本条例、国が検討しているこども基本法、さらに日本が批准している子どもの権利条約などの内容との整合に配慮しつつ条例を制定していくことになります。 |
| 13 | 地域フォーラムが3か所となっているのですけど、子どもの権利というのは重要なことなので、全てのコミュニティセンター、16か所で実施すべきではないでしょうか。 | 全てのコミュニティ協議会に、地域フォーラムの開催についてお願いしたところ、3か所から手を挙げていただきましたので、そこで市の職員から丁寧に説明したいと思っています。その他、市のホームページでも説明動画を上げるなど、いろいろな工夫をしたいと考えています。 |
| 14 | →自治基本条例のときも同じように地域フォーラムが3か所だけで、こういう重要なものとしては周知不足だという話をしました。地域フォーラムではなく、市が向いて全コミセンで実施するべきではないでしょうか。できる限り多くの方にコメントをいただいて、できる限り多くの意見の中から集約をしたものを次の形に持っていくべきだと思いますので、素案の際にはぜひ検討していただきたいと思います。 | コミセンでの地域フォーラムについては、コミュニティ研究連絡会に、6月6日のパブリックコメント締め切り後であっても、説明会をしたいという場合は説明に上がりますという御案内はしているところです。また12月に素案のパブリックコメントをするときにどうするかというところは、今の御提案も含めて検討してまいりたいと思います。 |
| 15 | 中間報告の1ページ、条例による制度化、骨子案における既存の制度と新規の制度との関係性の記載があります。この既存と新規の制度の関係というところが分かりにくいので、もう少し具体的にどうということの御説明いただけますか。 | 子どもプランに基づき実施している、子どもの最善の利益に資するような既存の取り組みの法的根拠となるような条例にすべきという考え方がA、既存の子どもプランの制度にとどまらない新しい制度も、この条例で作っていくべきという考え方がBになります。ここの部分は、Aを基本にしながらも、可能な限りBのように新しい制度もつくっていくことを提案していきたいという委員会の考え方を示しているものと認識しています。 |
| 16 | →地域フォーラムの件については、現状、コミュニティセンターの関心度がそこまで高くないと思ったほうがいいと思います。後になって聞いていなかったという話が出てくる可能性があるので、絶えず発信を続けるよう、ぜひお願いをしたいと思っています。 | |
| 17 | 8ページ「この条例は、子どもたちが安心して地域の人びととパートナーとして関わり合いながら、子どもとおとながともに生きる武蔵野のまちの形成を図ることを目指すこと」の部分で、パートナーと書いてあるのですけど、パートナーはどういう意味でしょうか。 | 地域の一員として子どもが大人と対等に参加するということについて、委員会では「パートナーとして」という表現をとっています。対等な関係で関わり合いながら、大人も子どもと共に生きる武蔵野のまちの形成を図ることということだと思います。もし御意見としてパートナーが分かりにくいのであれば、委員会にも伝えていきたいと思っています。 |

| 番号 | 主な意見 | 当日の回答要旨 |
|----|---|---|
| 18 | 9ページ、条例上の用語で「子ども」は18歳未満の全ての者で、その他これらの者と等しく権利を認めることが適当と認められる者をいう、とありますが、この「その他」は何でしょうか。いま、成人は18歳と言ったときに、19歳の方は子どもという表現の中に入れないのであれば、特別にあえて入れる必要があるのでしょうか。 | 委員会の中でも、子どもの定義をどうするかという議論はかなりありました。たとえば、こども基本法案では、こどもとは心身の発達の過程にあるものをいう、ということで年齢で区切っていなかったりとか、他市もいろいろな定義があります。皆さまからの御意見をいただいて、委員会での再検討があるかもしれませんし、市の素案の際にも精査していきたいと思っています。 |
| 19 | →現状で言えば、成人年齢が18歳に下がったことを考えると、そこで切るのの一つの合理性がありますが、その他と書かれてしまうと、特別なものがあるという議論が出てきます。逆に18歳よりも前で親の養育から離れてしまう、独立してしまう人たちはこの子どもの権利条例の枠の中に入るのか、入らないのかという議論も考えられます。このあたりはぜひ検討してもらいたいと思います。 | |
| 20 | 10ページ、C-2の市民の役割の補足説明で、「市民は、家庭環境に恵まれない子どもの現実や学校の多忙な環境の中で自分を失いがちな子どもの現状をふまえて、子どもの最善の利益のもとで、地域における子どもの居場所の確保に努めることが望まれます」とあります。これは学校の多忙な環境なのですか。学校だけではないと思います。これは補足意見なので、全体の意見ではないのかもしれませんが、こう書かれると、とても違和感があります。書き方としては、様々な生活環境の中で多忙なために、本来は学校がメインで生活をする子たちがどうしても息が抜けない状態になっているのをどうするか、といったことではないでしょうか。 | 中間報告につきましては、検討委員会の中での多様な意見として、補足意見を記載しています。こうした点も含めて、市民の皆様にも御議論いただきたいと考えています。 |
| 21 | →10ページの学校の多忙化というところから始まって、その後、子どもが休む権利のところ、子ども特別休暇制度を設けることも考えられるとあります。23ページのところには、親は通わせる義務があるけど、子どもは休む権利があるのだとありますが、それは憲法上おかしいのではないのでしょうか。単純に、学校が多忙だから学校を休む権利をつくるべきだ、ではなくて、全体を見通して、どうやって子どもたちが自分たちのために休息を取れる時間をつくるのかというのは、保護者、養育者がしっかりと考えて、義務教育にしっかりと行けるようにすべきだと思います。 | 指導課としても、いろいろと齟齬が出てくるところもあると認識していますが、委員会の中で様々な議論があった部分ですので、委員会の意向として記載をしています。就学義務と子どもの権利というところについては、さらにまた議論を深めていかなければいけないと思っています。ただし、子どもの休む権利については、多忙な中でというだけではなく、ちょっと自分を見詰め直すためとか、学校の授業だけではなくてちょっと一休みするためとか、そういった点で認めていくことも大事だと考えています。学校生活だけではなく、家庭環境の中のことや、大人や地域がどう認識していくのかなど、さらにこのパブリックコメントで様々な方に御意見をいただければと考えています。 |
| 22 | →休む権利について、有給休暇的なものに対してはとても違和感を感じています。学校内で少し休みたいとかどうだとか、それは一定の理解をしますが、それでもやはり授業はきちんと受けてほしいなという思いは持っています。 | |
| 23 | 11ページの保護者の役割というところで、「条例では、子どもの最善の利益を実現するために、家庭を支えるための地域の支援システムを構築していくことが重要であると考えます」とありますが、子どもの最善の利益というのは年齢によって求められるものが違うと思います。また、13ページ、子どもを支える人びとへの支援の必要性で、「おとなが幸せでないと子どもは幸せになれません。子どもの権利は、おとなの権利の実現があってこそ、保障されます。したがって、子どもを支援するおとなの支援、権利保障が欠かせません」とあります。これはぱっと読んでしまうと、そのとおりだと思うのですが、少し違和感があります。子どもの最善の利益というのと、大人の幸せというか、利益は、相反するところは必ず出てくるのではないのでしょうか。 | 大人が幸せでないと子どもは幸せになれませんというのは、川崎市の条例における子どもの言葉として委員会内で紹介されたことを受けて記載されているものと認識しています。この中間報告は基本的に委員会でつくっていただいているものですが、内容についてはこの機会にさまざま議論をしていただきたいと考えています。ご意見は、委員会にお伝えします。 |
| 24 | →子どもが生まれてすぐの頃というのは、子どもの最善の利益はやはり御家庭でしっかりと育てられること、これが普通の考え方だと思います。家庭で保育をして、親と一緒にいる時間が長いほうが子どもにとって一番いいだろうと私は考えていますが、そうなったときに、親が保育園に預けたいとなると、そこは考え方としては相反するものになりませんか。それ以外にも、小学校や中学校で、親がよかれと思って習い事をさせても、子どもは実は多忙でどうにもならないといったことも有り得ます。やはり相反する部分は出てくると思うので、この書き方は違和感があります。 | |
| 25 | 16ページの保障すべき子どもの権利の部分で、子どもは教えられて育つだけでは人間になれません、子どもには誰でも生まれながらにして自分で自分を育てる力があります、と記載されています。この自分で自分を育てる力というものの意味合いというのが分かりにくいのですが、自分で経験を積むという理解で良いのでしょうか。 | ご指摘のとおり、子どもは経験して自分なりの成長ができるが、それを大人がこっちはいいだろうというふうに決めつけて、その子の教育、その子の自分らしさを阻害してはいないかという意味合いでの記載だと思います。 |
| 26 | 17ページには、「(6)子どもには、自分の意思で学ぶ権利があること」となっていて、最後のところに、「学校は、過度の競争主義の環境にさらされないように子どもの学ぶ機会を確保する必要があります」とあります。競争主義とまでは言わないですけど、しっかりと競争は実社会の中ではあるという考え方からすると、この考え方は過度でない競争というのは十分存在して、それも教育の中ではしっかりと教えていくという考え方でいいのでしょうか。 | 御指摘のとおり、一定の競争は学校教育の中でもある程度あると考えます。それは大人が仕向けて競わせるということではなく、子どもたちが目当てを持って、誰々に負けないように頑張るであるとか、目当てにするであるとか、目標にするであるとか、そこでお互いに切磋琢磨し合うという、そういった考え方は大事だと認識しています。 |
| 27 | →自己成長ができるということだと思いますし、競争というのは何らかの形で必ずあるものですから、それを全て排除するような表現ではなく、しっかりとしたことはやっていただきたいと思っています。 | |
| 28 | 21ページ、子どもの居場所について、子ども専用の居場所というところで、「市は、思春期、青年期を迎えた若者が自分らしく生きたい、仲間とともに活動していきたいというニーズに応え、学校だけでなく地域において多様な居場所を整備していくよう努めること」となっていますが、市としていま何があるかを聞きしたいのと、検討委員会ではそういった例を提示しなかったのかを教えてくださいたいと思います。私はあると思っています。 | 検討委員会の中でも、武蔵野プレイスに視察に行ったりとか、プレーパークに視察に行ったりしています。22ページのところで、参考事例として、杉並の中高生世代専用の居場所、ゆう杉並というのが書いてあるのですが、こちらは武蔵野プレイスと書いてもいいのではないかとすることは御提案もしましたが、委員会の考えとしてはこのような記載となっています。 |
| 29 | →この先の考え方からすれば、実際には18歳までといったときには児童館は入りませんか。コミセンも本来は活用の仕方からすれば入れるべきではありませんか。議論をしっかりと醸成させるために、市から提示していただきたいと思いますが、いかがでしょうか。 | 議論の過程の中で、武蔵野市の今ある居場所であるということで、地域子ども館やコミセンも含めて全て御提示して、今こういう使われ方をしていますということは御案内しながら議論を進めていただいています。 |

| 番号 | 主な意見 | 当日の回答要旨 |
|----|--|---|
| 30 | →その議論に合うような活用の仕方になるように今後私たちも努力をしなければいけないのですが、コミセンやほかの場所についても、地域はそういった認識になっているのかということも含めて、議論の中で醸成をしていただければと思います。 | |
| 31 | 30ページ、子ども会議の設置で、「自治体の支援で子ども会議を開催している地域もあるが、必ずしも成功しているとはいえないとの意見もありました」ということで、どんなことが課題なのでしょう。「子ども会議の設置は子どもを送り出す学校現場の過重負担を招くおそれがあり、現行の児童会、生徒会、あるいは市民科の取組を充実させることで十分との意見もあった」というのが課題の部分なのかもしれませんが、そうだとすると、現状は子ども会議ではなくて違う形の方が良いのではないかと、という点がとても気になります。御見解をいただければと思います。 | 子ども会議については、各学校から1名選んでとなると、誰を選ぶか、学校代表としてどんな意見を言ってくるか、といったことが学校の負担になる、子どもにとっても自主的な参加ではない、といった議論がありました。他自治体では自由参加の場合でも参加者が減っているといった課題もあるようです。28ページに具体的に子ども会議のことが書いてありますが、議会との関係の考え方や、条例にこうした具体的な制度を書き込むのかというところは御意見をいただければと思います。 |
| 32 | →28ページの子ども会議の部分については書き込むべきではないなと思います。やるのであれば、こういうものを設置しようといったくらいだと思っています。それを設置して機能するのかという点に疑問を感じるのと、子ども会議を運営するに当たって、年齢層だとか、本当にできるのかといった点がすごく難しいだろうという感覚を持っています。 | |
| 33 | 37ページの、第三者的相談救済機関の創設のところで、子どもオンブズパーソンが人なのだというのは分かるのですが、置くのは1人ですか。また、この方はどのような資格になるのでしょうか。いろいろなことを仲裁するとかすごいことが書いてあるのですが、相当この方の権限は強くなってしまわないかと思っています。強権的なことはできないだろうとは思いますが、本当に大丈夫なのか不安に思っています。 | オンブズパーソンの具体的な形というのはこれからの検討だと思っています。38ページに「オンブズパーソンがその機能を発揮するためには、オンブズパーソンに必要な権限が与えられていることが重要です」とありますが、委員会ではこのように検討されています。 |
| 34 | →本当にそんなに権限を与えなければいけない、ないしは与えていいのかということが、疑問です。それとともに、同じように、補佐をする人、常設の相談・調査専門員の設置が必要とあります。そうすると1人ではなくて、チームだと思いますが、この人たちも様々な専門員としての権限はあるのでしょうか。あまりにも権限を強くし過ぎるというのは懸念を持つところですが、この辺りをしっかりと議論していただくとともに、市の執行部で最終的な御判断をされるのでしょうか、その部分は、しっかりと線を引くといった形を取っていただきたいと思います。 | 権利擁護委員のところについては、他市の事例では、通常オンブズパーソンと言われる方は3人ぐらいで、そのほかに相談・調査員が常勤で、2、3人おり、ふだんは相談・調査員が相談を受けて、何かあったときにオンブズパーソンが関与する形が多いようです。オンブズパーソンは、多くの場合、弁護士や社会福祉士、権利擁護の研究をして知識を持っている方が多いと聞いています。権限については、学校でいじめがあったときにそこに入っていく場合など、一定程度の権限を持つべきだろうということで、委員会では議論されていました。 |
| 35 | →特にそこは人の部分がとても重要だと思っています。学校に入っていくといったときには、学校の管理責任者である校長先生と外から来るオンブズパーソンとの、力関係という変な言い方なのですが、その辺りも後々課題になってくると思います。その辺りもクリアにできるようにしておいていただきたいと思いますので、よろしくお願いします。 | |
| 36 | 内容的な方向性は非常にいいと評価させていただきたいと思います。最終的には、条例ですから、議会での判断になりますので、細かいことについてはこれからなってくるので、今後また議論させていただきたいと思っています。 | |
| 37 | 国と東京都の関係をどうしていくかというのがこれから一つの課題になってくるかと思っています。こども家庭庁の議論の中で、子どもの権利の主体は子どもなのですが、それを擁護するのは親の責任ではないかという論と、やはり社会全体で見なくてはならないのではないかと論があったと思います。この中にも第一義的には親が当然見なくてはならないとありますが、そこを言っている、とても子どもたちを守り切れないという社会状況も考えると、やはり社会や地域全体で子どもの権利を守っていく、子どもの最善の利益を保障していくという姿勢が必要だと思います。今回の条例案はその大前提は崩さないということによろしいでしょうか。 | 報告書4ページに、「子どもの権利条約にもとづき、日本国憲法をはじめとした、国や東京都の子どもに関する各種法令をふまえ」とあり、その骨子の基となる考え方のところでも「委員会では、国、東京都レベルの子どもの権利保障をふまえて、武蔵野市としての独自の子どもの権利保障の条例を検討します」と書かれています。親の責任の部分は、11ページのC-3、保護者の役割というところで書いてあります。補足意見のところにありますように、第一義的責任を強調すべきかという部分について、意見は分かれたところがあります。こちらもパブリックコメントで御意見をいただければと思っています。 |
| 38 | →親の第一義的責任は、最初は何とも庁とかこども基本法という話が、いつの間にか、家庭という名前がついて、親が行うべきだという論が強いところがあります。それが全体というわけでもないのですが、いろいろ国の中でも争点になっているというのを承知しています。武蔵野市の条例の中でも、やはり親が全部責任を持つということになる可能性もあるという理解でよろしいでしょうか。その辺りが争点になっていくことを気にしています。今後のパブリックコメント次第とは思いますが、一つの重要な論点になっているという認識でいいのでしょうか。 | 検討委員会の中でも見解が分かれたところですので、パブリックコメントでも分かれる可能性はあります。権利条約のカードブックを見ますと、子どもの権利条約の中でも親の第一義的な責任というところは書いてありますし、今、武蔵野市の子どもプランの中でも第一義的な責任というところは書いています。何でも親の責任というのではなく、子どもが安心して生きるための最初の第一義的なところがあるのではないかと議論がされていました。 |
| 39 | オンブズパーソンというのは大きなポイントだと思います。これを設置する、設置しないというのは、国の中でも議論が分かれていますし、ほかの自治体でも、つくる、つくらないかが大きな争点になっています。詳細についてはこれからですし、権限も分からないのですが、基本的には設置するのが市の考え方なのでしょうか。本来は、いじめ等はないことがベストなのですが、起きてしまったときに、やはり学校だけで解決するわけにもいかないし、教育委員会でも難しい。当然、議会、市だけでもできない。なおかつ、武蔵野市であるかどうか分かりませんが、学校や教育委員会にいくら言っても相手にされなくて子どもたちが不幸な状況になってしまうことを考えると、第三者的な相談を受ける、あるいは権利を守ってくれる組織が必ず必要だと私は思っています。 | 権利擁護機関については、現在の検討委員会の前の、庁内検討委員会の時点から、子どもからの相談が少ないという現状を踏まえ、子どもを権利の侵害から守るために設置したいという考えを、市として持っています。 |

| 番号 | 主な意見 | 当日の回答要旨 |
|----|---|---|
| 40 | →オンブズパーソンについては、設置する方向で行っていただきたいですし、その権限の範囲はこれから課題になってくるのですが、逆に言うと、東京都の児童相談所等の機能をどうしていくかという話が出てきます。もう一つは、地域には民生・児童委員という方もいらっしゃる、その辺はすみ分けなり役割分担をされていくという認識でしょうか。また、武蔵野市では、子ども家庭支援センターなど、いろいろ手厚いことをやっていますので、同じようなことを別なところでやっても意味がありませんから、どこかで整理していくという理解でいいのでしょうか。 | 権利擁護委員の権限や、民生・児童委員、子ども家庭支援センター等とのすみ分けなどについては、今後検討していきたいと思います。 |
| 41 | せっかくこういう条例をつくっていても、市民が知らないとか、そんなことは聞いてもないよということになって、周知不足で条例を認められなくなってしまうとか、あるいは理解が進んでいないとかということになってしまつては困ると思っています。そういう意味で、周知をもっとすべきだという話があって、本当は当然コミセンごとにするべきだと思います。 | コミセンでの地域フォーラムについて、全18か所と市主催の意見交換会3か所、全21か所となります。そこまでやるのがいいのかという問題はありますが、検討していきたいと思っています。 |
| 42 | →コミセンについては、18全部でなくても、駅勢圏ごとでやるとかその辺は構わないですが、コミセンを頼るだけでなく、やはり市としても姿勢を示していってほしいと思います。これはぜひともやっていただきたいと思います。 | |
| 43 | 子どもに対する周知をどうされているのか、具体的に数字等々があれば伺いたいと思っています。令和3年8月31日から9月10日にタブレットを使ってアンケートを取ったら、76%という高い回答がありました。これはとてもいいことだし、これは今後も続けていってほしいと思います。アンケートの回答の概要を、分かる範囲で構わないので、お示しいただけますでしょうか。 | 子どものアンケートの結果は5ページのQRコードから御覧いただけます。市立の小学4年生から中学3年生までにタブレットを使ったアンケートをしています。条例の検討について周知するという目的もあり、子どもの権利を知っていますかとか、自己肯定感とか、ヤングケアラーの状況とかを調査したものです。周知については、今回のパブリックコメントにあたっては、武蔵野市の在住・在学の全ての小学校・中学校・高校に通う子どもに資料を届けています。また、子育て団体に150か所のところに直接送っています。そのほか、学校の先生や、認可保育園、幼稚園、地域子ども館にも送っています。 |
| 44 | →QRコードで見ると、確かにいろいろな意見があって、それはそれでよかったと思うのですが、やはり子ども自身の意見というのが一番大切だと思いますし、全てQRコードで済ませるというのはどうなのだろうという疑問を持っていますので、もしお考えがあれば聞かせていただきたいと思います。 | 今はQRコードですが、周知のために必要だということであれば最終の報告書には載せたいと思います。 |
| 45 | 不登校になっているお子さん、あるいはいじめを受けて公立の学校には行けなくなっていたけど、フリースクールで今こうなっている、あるいは実体験をした方々にも聞いたほうがいいと思いますし、武蔵野市でもいろいろ事業をやっているの、話を聞ける体制はあると思うのですが、そういう方々の意見も反映していくという理解でよろしいのでしょうか。 | 不登校の方の意見については、46ページの委員会の検討の経過のところにもあるとおり、市内の事業者の視察ということで、みらいへ視察に行ったり、スクールソーシャルワーカーとの意見交換会をやったり、あと、47ページにあるとおり、子ども・コミュニティ食堂や支援団体の方との意見交換会をやったり、子どもの居場所の利用者と意見交換会をやったりといったことを委員会でも実施していただいています。 |
| 46 | 今回の中間報告だけではなくて、子どもに向けても理解を進めていっていただきたいと思います。1回アンケートを終わっただけでは意味ができませんから、中間のまとめが次が出て、素案が出てという話で、子どもたちに一緒に参加していただこうという理解でよろしいでしょうか。 | 今回のパブリックコメントについても、市立の小学4年生から中学3年生については学校からパブリックコメントの案内をしてもらっています。そこでは、導入としてのアンケートも実施しています。その結果についても後日お知らせしたいと思います。 |
| 47 | Teensムサカツは20人だけです。本当はもっと200人単位ぐらいで参加したほうがいいのではと思っています。今回、「こどものけんりってなあに？」に、令和4年度も昨年に引き続き子どもの権利に関する条例をテーマにしたワークショップなどを実施しますと書いてあります。もっと幅広くやってもいいように思うのですけれども、20人ぐらいしか参加しないという理解なのでしょうか。これももっと増やすなり対応を拡充していただきたいと思いますと思いますが、この点について御見解を伺いたいと思います。 | ムサカツの実行委員会は昨年は15人ぐらい集まりました。本番のワークショップは実行委員も合わせて34人の子どもたちが集まって、報告書6ページにある子どもたちの言葉をつくったもので、かなり大がかりに実施しています。緑色の紙の「こどものけんりってなあに？」は第1号ですが、権利について興味を持ってもらえるように、第2号、第3号と、今年度は4回ぐらい出して、学校に配布し、権利について興味を持ってもらいたいと思っています。 |
| 48 | →ゼロ歳から18歳は2万人ぐらいいます。そこが全員というわけにはいかないとは思いますが、なるべく数多くの子どもたちに知ってもらい、考えてもらい、意見交換する機会を設けていくと考えると、ここはここで大切ですが、そこからまださらに広がっていくことが今後必要だと思います。条例をつくるために何回かやることは必要なのですが、そこで終わってはいけないと思います。その先も定例的にやっていかなくてはいけないと思うのですが、いかがでしょうか。 | 昨年度も、経過報告のところにありますとおり、弁護士会の委員による小学6年生を対象としたいじめ予防授業を実施したり、保育園や地域子ども館の先生を対象にした研修を行ったり、市立の小・中学校の校長会の研修を行っていただいたりしました。2万人いる子どもになると、やはり学校などの協力も得ながらということになりますが、今回も学校の協力を得ながら校長会とかでも随時話していただくなどしています。権利擁護委員の仕事の中にも、広報、普及啓発というところもありますので、市としても条例制定後も周知には努めていきたいと思っています。 |
| 49 | 休む権利について議論が分かれていて、教育を受けていないから出席にしないのだという考え方がここに書いてあるのですが、こういう考え方もそろそろ考え直していかなくてはいけないのではと思います。独自で判断するのはなかなか難しいと思いますが、オンラインも、出席する、しないという議論が分かれている中で、その子どもたちにとって、いい時間の過ごし方をしている、あるいは学校に行けなくても、その子にとっては必要な時間と認めたときには、何かしらの対応をしてあげないといけない時期になってきていると思います。こういう議論も進んでいるのでしょうか。要は、学校に来ればそれいい、保健室にいればそれいいという考えから、家にいても例えばタブレットでちょっと情報を引くとか、どこかの児童館にいることもその子にとってはとても大切な時間だという、そういうところを認めていくというのは、今後条例が制定された際には必要になってくると思います。現状で、休む権利についてどういうことを話されているのか、あるいは今後どういことをされていくのかについて伺いたいと思います。 | 小・中学校におきましては、昨年度から校長会等を通じて、全校朝会や校長先生からの講話で、子どもの権利条約についてなど子どもたちに話してもらっています。道徳科の中でも、子どもたちがいろいろ話し合った中で、最後、先生からの説話で子どもの権利とこういうところが結びついているなどと話してもらっています。今回も「こどものけんりってなあに？」を活用した指導や、小学校6年生の社会科で、パブリックコメントへの参加を促すといったことも行います。今度、条例素案の際は、中学校3年生の公民的分野とも関連したことや、また、学級活動等を通じて担任の先生から話をするといった啓発をお願いしています。現在も不登校児童生徒についてオンラインや、何らかの学習活動をしていれば、出席扱いとして認めることはあります。休む権利のような、ちょっと一休みするようなものは、出席とするよりは、欠席でも別に悪いことではないと、周囲が理解することが大事と考えています。一方、何の理由もなく、制度を使って休むとなると、虐待を受けているかもしれないとか、何か隠れているかもしれないということも心配ですので、学校としてはしっかりと子どもたちの状況については把握していく必要があると認識しています。 |
| 50 | →学校の授業でもぜひやっていっていただきたいと思いますが、出席という概念がこれからもっと変わってくると思います。武蔵野市の教育委員会として、子どもの最善の利益を学校教育の中でどうやって担保していくのかということを考えていかなくてはなりません。教育の大きな概念はかわると思います。欠席は悪いことではないとしても、内申にはやはり欠席日数が出てきます。そうすると、そこが不安になるということも出てくるので、その辺りの方向性について確認をさせていただきたいと思います。 | 教育を受ける権利という観点から考えると悩ましい状況に向き合っていると思います。もし履修していないとしたら、子どもの教育を受ける権利というのが阻害されているわけです。当然、教育機会確保法が成立した後は、何があっても学校復帰するということではありませんので、実質的な子どもの学びをどのように保障できるのかということに向き合うべきと考えています。 |

| 番号 | 主な意見 | 当日の回答要旨 |
|----|--|---|
| 51 | →大人は当然自分たちで調べたり知るといことは必要だと思うのですけれども、子どもがきちんと理解して、自分が地域に守られているということは理解してもらうことが一番大切だと思いますので、この点についても周知を拡大していただければと思います。 | |
| 52 | <p> 昨年の住民投票もそうでしたが、周知の方法については、知らなかったということだけで前に進んでいけないことがあります。今回は相当アンケートも取っていただいているという話も伺いましたので、よかったのですが、コミセンの話については、運営負担を考えると、あまりコミセンに過度な期待を持たないほうが良いと思います。地域フォーラムというのは、むしろ例えば青少協とかに持って行ってはどうでしょうか。そういうところで、コミセンや行政と連携をして、地域フォーラムみたいなことをやっていくと良いと思います。 </p> | ご意見を参考にさせていただきます。時期としては、12月の素案のときになるのかもしれませんが、また検討したいと思います。 |
| 53 | アンケートを相当取っていただいているようで、安心しましたが、無作為抽出などで、当事者の子ども以外の、少年期が終わった、いわゆる大人の仲間入りをした年代にも、意見を聴くという意見が出てくるのではないのでしょうか。 | 今回の子どものアンケートも、学校の協力を得ると、4,700という数が来たのですが、QRコードがついたチラシを配布した、任意のWebアンケートの方は、32件だけでした。そうした方法の問題はあるのですが、無作為抽出等も含めてまた検討したいと思います。 |
| 54 | <p> スケジュールについては、少し早いかと感じます。丁寧にやらないと、住民投票の二の舞になってしまうと思います。これは子どもたちのためにとっても大事かもしれませんが、大人が理解していなかったら、何の意味もない条例になりかねません。いかに大人にこの理念を伝えるかというのが、一番の課題だと思います。犯罪を起こしてしまったお子さんは、ほとんどがやはり家庭に問題があります。そう考えると、大人のほうにより責任を感じていただくようにしなければいけないと思っているので、周知をよろしくお願いしたいと思います。 </p> | 条例をつくるまでも、つくった後も、周知については十分努めていきたいと思います。 |
| 55 | 子ども会議について、いろいろな意見を吸い上げられるようなシステムを考えてもらいたいと思います。つくるのを否定しているわけではありません。こうした集まりに参加できる子どもたちだけでなく、例えばヤングケアラーや、虐待少年という、もう少しで犯罪を起こそうな少年など、そういった子どもたちからも意見を聞くことができると良いと思います。せっかくこういう条例をつくるのだったら、より広い子どもたちに対して幸せになる権利を与えられる、こういう条例にぜひすべきだと、そのように思います。 | 委員会では、子どもが意見表明をすることによって自己肯定感が高まるという意見もありました。子ども会議について、そういう意見を出せる子どもだけではない意見をどう反映させるか、というご意見について、委員会にお伝えします。 |
| 56 | <p> オンブズパーソンについては難しい部分があります。一定程度の調整役が必要とも思いつつ、本当にどこまで権限を持たせるのかはとても不安です。例えば、児童虐待は家庭内で行われることが多く、そこまで入っていけるのかということです。オンブズパーソンをつくることは否定しませんが、中途半端な権限を持たせるのだったらやめたほうが良いと思います。民生委員や保護司が一生懸命やろうとしているときに上からかぶせられたら、せっかく更生の道を進ませようと思ったのに違う方向になってしまうと問題です。やるなら徹底してやってもらいたいし、中途半端はやめてもらいたいと思います。 </p> | 御意見として伺いたいと思います。 |
| 57 | <p> 中間報告に、子どもは管理されることや監視が嫌だ、これがストレスに感じるのだという、といった記述があったと思います。たしかにそうかもしれませんが、あまり行き過ぎてしまうと、地域の見守りのようなものが、おろそかになるという不安もあります。こういう条例によって、大人は監視管理をしたらいけないということだけが独り歩きをしてしまうと、地域の連携や、日本の文化のようなものにまで影響してくるのではないのでしょうか。そこはすみ分けが必要だと思います。 </p> | 御意見として伺いたいと思います。 |
| 58 | <p> 学習者用コンピューターで子ども向けのパブリックコメントを取るの、なるほどなと思いました。子ども会議についても、こういうものをもう少し拡大してはどうでしょうか。要は意見が出せるところがあればいいのです。変に大人に意見を言って、大人に意見を潰されると、大人を信じられなくなる子どもになってしまうので、自分たちが意見を言って、それが例えば結果として返ってきたり、結果として目に見えるようになってくると、子どもたちはだんだん自己肯定感が出てくるし、大人を信用するようになってきます。一回大人を信じなくなってしまった子どもを信じさせるのは大変です。意見を言う場をつくるというのは賛成なので、会議という形がいいのか分からないけれども、意見を言える、それがまたフィードバックされる、そういうことを考えていただけるとありがたいなと思いました。 </p> | |
| 59 | <p> 今後の意見募集等についてなのですが、「市民意見交換会(市主催)」ということは、今日の委員会のように、職員の皆さんが説明して、職員の皆さんが答える。それで、条例の検討委員会の方はそこにはいない。そういう意見交換会というつらえだと考えていいですか。 </p> | 基本的には市主催ですが、委員会の委員長にオブザーバーとして参加いただく予定です。 |
| 60 | →市民意見交換会は、行政の説明を聞く会みたいな、そういう雰囲気ではなく、大勢の方の意見を出していただく会になるように、ぜひ心がけていただければと思います。 | 市民説明会ではなくて市民意見交換会という名称にしたのもその主旨になりますので、市民同士の意見交換が行われるような場にしたいと思います。 |
| 61 | <p> 子どもたちに学習者用コンピューターで聞くのは、たとえば市民科のような授業の一環なのでしょう。それともホームルーム等なのでしょう。また、子どもからのアンケートの結果は担任が取りまとめて、先生たちに見られるという段階が一旦入って事務局に来るのでしょうか。 </p> | 校長の講話や、担任からのお話、また、道徳の授業や社会科の授業で、こういった取組があるという案内をします。授業の中で回答までさせると強制になりますので、今回は、子どものパブリックコメントとして、子どもが自主的に主体的にしっかりと参加できるようにしっかりと導くということを学校にお願いしています。アンケート結果は直接回答フォームで市のほうに来るので、担任の先生などは見ることはできません。どの学校がどれだけ答えたかということも学校のほうでは分かりません。 |
| 62 | <p> →意見表明権は強制参加ではないとか、授業の一環でやるものではないとか、一番知られたくない教員に知られてしまうと子どもにとっては素直なことが表明できなかつたりするとか、そのあたりを理解してもらっていて良かったです。そういう関係ではない教員と生徒も多いと思いますが、やはり子どもにはなかなか遠慮なく本当の自分の意見が表明できる機会がないので、とても重要な機会です。この過程で得られた子どもたちの声を、ぜひしっかりと条例に反映できるように工夫をしていただきたいなというのが私の要望です。 </p> | |

| 番号 | 主な意見 | 当日の回答要旨 |
|----|--|---|
| 63 | 条例制定までのスケジュールで、5月が今ここで、今は委員会の中間報告ですが、委員会の最終報告が出たときには、それは議会には報告がなく、そのまま市の素案段階ということになるのですか。5月から12月のことについて、もう少し説明をいただければと思います。また、中間報告が最終報告ではさらにボリュームが多くなるのでしょうか。どういうイメージで条例の検討委員会から市長のほうに受け渡されるのでしょうか。 | 検討委員会のスケジュールとしては、今度、7月7日と8月30日に委員会があります。9月に最終報告が出る予定ですが、それは議会にポスティングさせていただこうと考えています。中間報告の後の最終報告がどのような形になるのかは、委員会の中の議論によりますが、無理にまとめるというよりは、やはり多様な御意見を提出いただき、市の参考とさせていただくというのが趣旨の委員会であると考えています。 |
| 64 | 子どもの権利条例のことは、私としては二十数年の自分としての課題なのですが、20年以上前と大きく異なっている社会状況が二つあり、一つは民法の改正、18歳で成年です。もう一つは、残念ながら、本当にこの世界で戦争が起きているということです。武蔵野市で今度できる子どもの権利条例の内容は、どうしてもそこを踏まえなければいけないと思いますが、いかがでしょうか。 | 18歳のところは、子どもの定義のところでも話題になりましたが、大人への移行期の支援という議論も踏まえて検討していきたいと思っています。戦争についても、3月29日に34人の方が参加して開催した「Teensムサカツ」でも、子どもたちも実感する様子うかがえました。こうした状況もあり、前文や大切な権利というところに、戦争や平和のことが入っているというところだと思っています。 |
| 65 | →民法で18歳が成年だと言っても、少年法では特定少年ですし、契約はできるけど飲酒とかはできないとか、非常に揺れ動いている世代です。高校で休学をすれば、19歳、二十歳でも高校生がいます。法的には成人でも、精神的にも経済的にも大人になる移行期にある人たちの支援は、基礎自治体ならではの道だと思います。一番手が行き届かなくなるところなので、丁寧にやっていただきたいと思います。 | |
| 66 | 先日「夢みる小学校」映画を見ましたが、そこでは、子どもの休む権利といった議論そのものが存在しませんでした。子どもが休んで良いとか、休息の権利とかいったことを言わなければいけない、今の社会や学校を私たちは変えなければいけないのではないかと思います。この条例ができた後、学校現場ではどのような取組が期待されるのでしょうか。 | いじめ防止について条例に位置づけることで、さらに子どもたちを守る仕組みを整えることができと思っています。また、今回の中間報告も全教員に全て配布して読んでもらっています。子どもたちだけでなく、教職員が関心を持ち、理解することが重要です。子どもたちの意見表明については、授業でも、ただ教え込むのではなくて、主体的・対話的で深い学びの授業に改善していくという機運を、先生方にも起こしていきたいと考えています。 |
| 67 | オンブズパーソンの件で、コスト論だとか、他の同様の制度とのすみ分け論といったことで、市の条例案に入らないということがないか伺います。 | 市として子どもの権利条例を制定する際は、単なる理念条例ではなくて、実際に今現在子どもたちが置かれている虐待やいじめについて、第三者的相談救済機関が必要であるという認識を持っています。現時点では、第三者機関の創設も視野に入れた形で条例を制定したいと考えています。 |
| 68 | 基礎自治体としての条例の肝となるのは、東京都や国がつくるものとは違って、実効性がある、どうやって子どもを守れるかという部分が非常に重要な部分になると思います。 | |
| 69 | Dの子どもを支える人びとへの支援というところで、子どもが最も長く生活を共にしている教職員、保育士に特段の重きを置いた支援に取り組む必要がありますと書いてあり、そのとおりだと思うのですが、その次に続く部分が、研修とか相談できる環境を整えるということで終わっています。この条例ができていって、子どもの権利を守るのだということになったときに、やはり教員の皆さんの負担というのは増えるのではないかと思います。教員の負担軽減を図っていかないと、なかなか子どもの権利を守るためにしっかりと子どもを見てもらうことができないのではないのでしょうか。 | 教員として、子どもの人権を守るのは最低限の、当たり前のことです。この条例ができたから、子どもの権利を守らなくてはいけなくなり、負担が生じるという考え方自体が間違っていると認識しています。子どもの権利をしっかり守って教育していくことこそが武蔵野市で働く先生方をお願いしたいことです。 |
| 70 | →すばらしい御答弁だと思います。ただ、その中で、やはり子どもの変化に気づいていくためには、先生方の心の余裕というものも不可欠かと存じます。教員の皆さんの書類の作成であるとか、子どもに向かわない部分の業務を激減させるという部分はぜひ今後ともお考えに入れていただきたいと思います。 | |
| 71 | 学校教職員は学校の限界を自覚して、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの心理的・福祉的支援を受け止め、相互の専門性を尊重して、という部分ですが、犯罪、虐待であるとかいじめについて、警察であるとか、スクールロイヤーという人たちの関与というのはどのようにお考えか、伺います。 | 現在武蔵野市立学校では、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーを配置して支援を行っているところです。また、警察とは、警察と学校の連絡制度があり、ここに書くかどうかというのは別としても、しっかりと行っています。スクールロイヤーにつきましては、働き方改革として、先生いききプロジェクトの中でも触れていますが、実現に向けて現在も検討を進めています。 |
| 72 | Gの、虐待の防止、いじめの防止という部分ですが、条例ができて、できなくても、困難性が同じであつたら、結局条例が理念で終わってしまうのではないかと思います。例えば母親がSOSを出してくれたら、そこに踏み込むのは簡単だと思いますが、母親自身がネグレクトであつたり、もうDVなどに慣れっこになってしまつて、子どもを守るためのSOSを出せないような状態になってしまったときに、この条例があることで、市や警察や児相などが相談をして、今よりも動きやすくなるということを想定されているのでしょうか。 | 26ページの(3)のところで、虐待、体罰、いじめ等様々なダメージを受けている子どもの相談というところがあります。こちらでは、様々なダメージを受けている子どもが安心して相談でき、SOSを出して適切な救済につながるよう、子どもの権利の学習の機会を設けるということや、子どもがダメージを受けたことに気づくことのできる支援者の養成、配置に努めることということが書かれています。 |
| 73 | →他市の例でも、保育園のほうから市にずっと、注意してください、困っていますと何回もお話がある中で、それでも踏み込まずにその幼児が死亡するということに至ったという報告があります。保育士や教員の方が気づいたときに、保護者が大丈夫ですと言っても、子どもに直接働きかけられるようなオンブズパーソンのような、ある意味権限を持った方が直接子どもに働きかけられる、子どもを守れるという実効性のある条例にぜひ今後していただきたいと思います。 | |